

第2回

懇談会 施設見学会



第2回懇談会が1月27日(水)に行われました。今回の懇談会は、施設見学会を企画して、ごみ処理の現状を見ました。見学会は、衛生組合、最終処分場及び3市のリサイクルセンターです。出席された委員は11人でした。各施設では説明の後に質問時間を設けて、施設の担当者が委員の質問に答えていきました。午前8:30から15:30頃までと長時間でしたが、ふだんなかなか見る機会のない施設を実際に見たり、担当者から話を聞いたり、有意義な施設見学会だったのではないのでしょうか。



11年度予算は18億3000万円です。これを3市(小平市・東大和市・武蔵村山市)の人口316,474人(平成9年10月1日現在)で割ると、一人あたり5,782円となります。歳入では、「分担金及び負担金」が最も多く、次いで「雑入金」となっています。全体の9割を占める「分担金及び負担金」は、組合を構成する3市が、拠入するごみ量の割合に基づいて分担しているものです。小平市が55%、東大和市が25%、武蔵村山市が20%です。「雑入金」は、組合に設置されている基金(財政調整基

平成11年度 一般会計予算のあらまし 分担金と経常的経費の削減を図り、みなさん一人あたり5,782円になります。



金・職員退職手当基金)から繰り入れられるものです。歳出では、「廃棄処理場費」が最も多く、次いで「公債費」となっています。全体のおよそ3/4を占める「廃棄処理場費」は、主に施設を運営・管理する経費です。平成10年度から継続して、循環型施設更新事業構想の策定事業を中心に行っています。また新規事業として、ダイオキシン類の大気調査など環境対策費が、この中に含まれています。「公債費」は、焼却炉等の施設建設時に国から借り入れた公債の償還金です。

ごみいった話

～小村大の困った。困った。～

「冷蔵庫、調子悪いのよね」「古い冷蔵庫、どうしよう?」「フロン、使ってたよね」「市役所に回収してもらいましょう」

今ではおなじみのフロンガス。ガスそのものは無色無臭で不燃性、非爆発性、無毒と安全なのですが、そのまま放出するとオゾン層を破壊し、地球温暖化や人体・生態系に影響を及ぼすため、非常に問題となっています。環境問題がクローズアップされるとともに回収が厳しくなりましたが、冷蔵庫やエアコンの冷凍として使われていたり、まだまだ身のまわりにフロンはあるのです。

その放つてはあけないフロン対策として、3市と衛生組合では、平成8年から廃冷蔵庫、廃クーラーのフロン回収を分担して実施しています。みなさまにご協力いただき、平成9年度には冷蔵庫2070台、クーラー902台、合計750kgのフロンを回収することができました。

フロン回収は、くさい?!



が、そこでした。非常に困った問題が起きています。「どうせ捨てるんでしょ」と、冷蔵庫の中にもものを入れたまま、出す人がとても多いのです。集められた冷蔵庫は、フロンを取り出すまで1週間ほど保管します。すると、庫内のものも、当然「そのまま」なわけです。入ったままのパナソニックやシャープ、想像してみてください。気温の暖かくなるこれから、特に夏場は本当に大変。冷蔵庫をいざ開けてみると、ニオイや汚水、カビが発生して、とても不衛生な状態になっているのです。そこで、お願いします。フロン回収にご協力くださるみなさま、どうか、冷蔵庫の中のものを取り除いてください。そして、「お疲れ様」の気持ちもこめて、軽くふき掃除をしてから出してください。

ごみ組成分析 調査隊員募集!

小平市、東大和市、武蔵村山市では、実際に清掃施設に運び込むごみは、どんなものかを調べるため、組成分析調査を行います。調査は、家から出た不燃ごみを大きなシートに広げ、一つひとつ分別するもの。決して楽な調査ではありませんが、いろんなことを発見したり感じたりすることができるといいます。調査隊員は、大人だけでなく子供も大歓迎です。ただし子供の参加は、保護者もしくは責任者同伴の小学4年生以上に限らせていただきます。ぜひ調査に参加したいという方は、各市役所まで、お申し込みください。

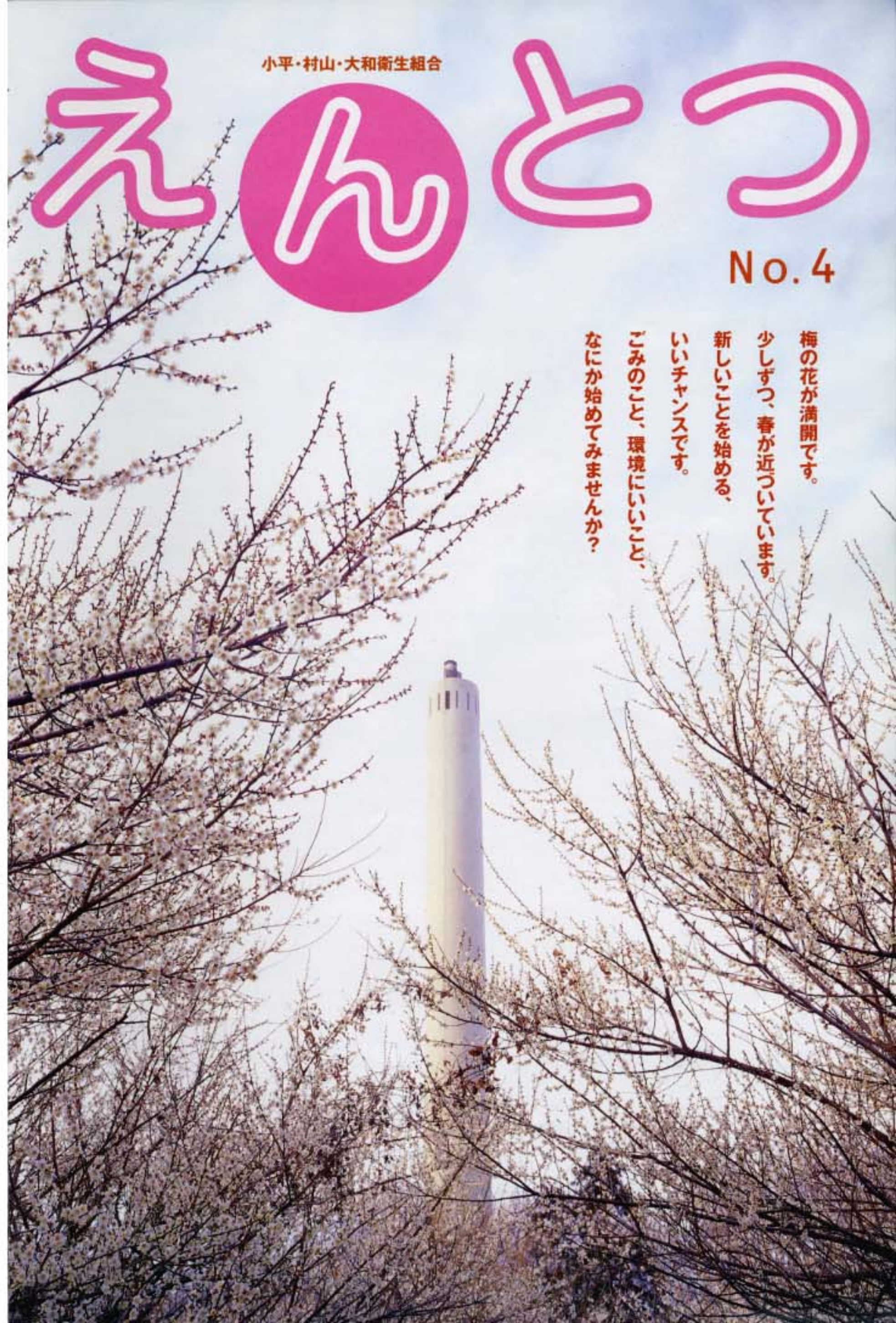
- 集合場所/小平・村山・大和衛生組合 4・5号が3階 見学者室
- 調査日時/3月27日(土) 午前9:00～12:00頃まで
- 参加人数/先着10組20人まで (事前にお申し込みください)
- 申込締切/3月19日(金)
- 小雨決行(中止の場合もあります)
- 調査隊員には「調査隊マニュアル」を事前にお送りします。
- 申し込み先/各市役所
小平市環境部ごみ対策課(☎042-346-9535)
東大和市生活環境部ごみ対策課(☎042-563-2111)
武蔵村山市生活環境部環境課(☎042-565-1111)

VOICE

編集後記

懇談会が設置されて、活発な議論が交わられています。かなり難しいご意見も飛び交いますが、それだけ自分たちの身近な問題として、深く関心を持って、真剣に取り組んでいるという姿勢が伝わってきます。お忙しい中、委員のみなさん本当にありがとうございます。最近、新聞テレビ、雑誌でダイオキシンの話題をよく目にします。環境問題(ごみ問題)を考えると、いろいろなメディアを通して、みなさんに興味を持ってもらい、一緒に考えようという大切さです。私たちも、情報の提供を積極的に行いたいと考えています。『えんとつ』(ごみ)をきっかけに、みなさんから「ごみ」という言葉が、身近なものになりました。『えんとつ』の内容を期待する「ごみ」の新しい「発見」もいたっています。みなさんの「発見」とも一緒に取り入れ、分かち合ったり、役に立つ情報を提供していきたいと思っています。楽しい「発見」・感想・ご意見・ご要望などお寄せください。では、また次号でお会いしましょう。

発行元
小平・村山・大和衛生組合
住所/小平市中島町2番1号
電話/042-341-1434
平成11年3月発行



小平・村山・大和衛生組合

えんとつ

No.4

梅の花が満開です。
少しずつ、春が近づいています。
新しいことを始める、
いいチャンスです。
ごみのこと、環境について、
なにか始めてみませんか?



東大和市の図書館に来た女性2人

Aさん／近所の人は、自分で燃やして灰を収集に出していますよ。あと、缶・新聞・ペットボトル・布などはリサイクルします。昔は道端に空き缶がころがっていたのに、最近はいなくなりました。乾電池は、袋に入れて「乾電池」と書いて捨てています。
Bさん／焼却、埋める、リサイクルかな。うちも最近から、缶やビールびんはまとめてリサイクルに出しています。電気屋さんの前に電池の回収箱があって、乾電池が燃えないごみじゃないってわかりました。

どんな ごみ処理方法 を知っていますか？

「毎日、発生するごみ。でも収集車が持っていってくれて、ごみがなくなります。」
どうしているのかなあ？

「正解は、清掃工場で燃やして、最後は埋め立てですよ！」

えっ、でも、ごみの処理方法って本当にそれだけなのかな？

「あれえー、そういえば、むかしは、きっと清掃工場なんてなかったんだよね!？」



東大和市の図書館に来た女性2人

Aさん／びんは、溶かしてリサイクルとか。トレーは溶かして作ってるんだっけ？絶対きれいになるよう方法を見つけて、繰り返し使えれば作らなくてすむのね。びんも、軽いびんでふたがあれば持ち歩けるし、みんな使うかも。スーパーのビニール袋はいらない。全部布の袋にして、次からそれを持ってきてもらえば、ごみは減るのでは？
Bさん／焼却、埋め立てくらい。家では、緑木の枝を燃やします。学校は、焼却炉で燃やしています。



武蔵村山市役所に来た男性

前は生ごみを機械で肥料にしてたけど、忙しいから手間かけられないし、畑もないから肥料の処分に困ってやめちゃったね。小さい焼却炉も持っていて腐木や雑草を燃やしていたけど、煙がでるので隣近所が気になって使わなくなっちゃったよ。

武蔵村山市役所に来た女性

解体屋をしています。解体したごみは業者に処理をお願いしているけど、指導が厳しくなってね。きちんと分別していないと処理してもらえないのよ。あと、解体するからって、家のごみを全部置いていく方が多くて、とても困ってます。昔は直して使っていたものも今は部品がなかったり、買ったほうが安かったり。こんな現状もごみ問題！業者も消費者も悪い！



東大和市の図書館に来た男性

ごみ処理は人手もお金も、ものを作るよりかかる。だから自動車や洗濯機が池に捨てられちゃうんだよ。今は何でも過剰包装で、これが全部ごみになる。処理することより、ごみを出さない方法を考えないと。ごみは有料にするとか、きちんと分別すると得するしくみにすれば捨て方も変わるよね。

武蔵村山市役所に来た女性

リサイクルや分別・燃やす・埋め立て以外にあるのかな？よくわからないけれど…ごみを他のものに生かすとか。あとはなんだろう？思いつかない。



小平市の図書館に来た男性

燃えるごみと燃えないごみ、缶・ペットボトルに分別して出している。学校では、前は焼却炉でごみを燃やしていたけど、ダイオキシン問題があってから燃やさなくなった。今、小学校でもそういう風になっているんじゃないですか。

ごみ処理方法の歴史（日本篇） 大むかし～現在、そして近未来へ

むかし・むかしの大むかし

縄文時代には、貝塚が食べかすの骨や貝殻の捨て場所でした。推定4,000年前の貝塚には、人骨も同じ所に葬られていました。
古墳時代、大和、飛鳥、奈良時代からずっと、ごみ捨て場、河川、空き地などに、ただ捨てるだけの時代が過ぎました。

江戸時代

人口100万人の江戸は、世界最大の都市でした。リサイクルは、かなり進んでいましたが、それでも出たごみは、各町共通のごみ捨て場に捨てられていました。ごみは、そこから集められて、東京湾で場所を窺えながら埋め立てられ、土地造成されていました。

明治時代

明治30年(1897年)敦賀に日本初の焼却炉が建設されました。その後、各地に焼却炉が建設されていきました。

大正・昭和初期 (戦時中～戦後)

東京市では、大崎に西斎焼却場が建設され、分別収集も開始。
多くの都市で野天焼却が行われていましたが、戦時下で灯火管制として中止され、いったん大規模焼却が終了しました。
戦後、遠征した米軍により、ごみ処理が再開。焼却場も復活しました。

高度成長期以降 (昭和30年代～)

自動車普及、収集・運搬は荷車や

牛馬車から、三輪車、トラック、バッカー車へと機械化され始めました。
高度経済成長に伴って生み出された「公害」「ゴミ問題」が、大きな社会問題でした。
昭和32年(1957年)東京では夢の島での埋立処分が開始。
昭和40年(1965年)小平・村山・大和衛生組合が発足され、翌41年に連続式焼却施設が稼働しました。

昭和45～49年頃 (1970年代前半)

埋立地の二次汚染が社会問題化。焼却などの中間処理が本格化しました。
昭和46年(1971年)東京都「ゴミ戦争」宣言。
昭和50年(1975年)福岡市に、わが国初の準好気性埋立処分場が完成。埋立構造が

開発されて、浸出水などもきちんと管理されるようになりました。
昭和48年(1973年)の第1次オイルショックを契機に、昭和50年頃(1970年代後半)からは、資源化・再利用も注目されました。

現代

平成(1990年代)に入り、第2次ゴミ戦争と呼ばれる時代。ごみ量が急増し、質も複雑化して、ごみ質に応じた処理を行うことが望まれています。
排出抑制やリサイクルが目指されるようになり、社会システム作りも検討されています。
これまでに衛生組合では、中間処理施設として、焼却炉の建て替え、粗大破砕施設の選別装置の改造、ダイオキシン対策などを行っています。

近未来、こんな処理技術が出てきます。

さてここで、ちょっと未来にも目を向けて、現在開発中の珍しい(SF風な?)処理技術をいくつかご紹介しましょう。

水で燃やす



水を374℃、220気圧という高温高圧にすると、液体でも気体でもないその中間の「超臨界状態」の水となります。この中に有機物と酸素を入れると、有機物は完全に分解、酸化されます。つまり水の中で燃えたような状態です。そのため、爆発がなく、ダイオキシン、窒素酸化物、硫黄酸化物、ばいじんなどは発生しません。最近、民間の工場などで稼働を始めた例があり、特に有害物——ダイオキシン、PCB、有機塩素系溶剤などの処理方法として期待されています。

きのこが ダイオキシンを食べる



ダイオキシンは、人間にとっては有害ですが、微生物にとっても「おいしくない」物質のようで、これを食べて分解してくれる微生物はあまりいません。しかし最近、きのこの一種の木材腐朽菌がダイオキシンを食べて分解し、無害にすることがわかりました。愛媛大学で研究が進められており、今後は細胞融合などによりダイオキシン分解能力の高い菌の開発を計画しています。

鉄を凍らせる



家庭の冷蔵庫や洗濯機にも使われているモーターは、外側は鉄の塊ですが、中には銅が入っています。鉄も銅も貴重な資源ですが、外側の鉄がとてつもないので、これまでは、人の手で解体してリサイクルするしかありませんでした。ところが、鉄を液体窒素でマイナス120度以下に冷やしてやると、もろくなり、簡単に粉々にできます。これを「極低温破砕」といいます。粉々にした中から磁石で鉄と銅を分ければリサイクルできます。これからの廃家電のリサイクル方法として期待されています。

環境問題と、 これからの 処理方法は…?

最近でも、新たな大きな課題や問題点が、いくつかあります。
最終処分場の残余容量が少ない、地球温暖化、ダイオキシンによる汚染、適切なリサイクル・システムの確立などです。
これらの問題の一部は、処理技術の開発や資源やエネルギーの有効利用などで解決できるものもあります。
私たちは、これらの問題解決に向けて、これからもずっと前向きに検討を続けていかなくてはなりません。